

## ⑤「国際規格のFD戦略」による教職員の海外派遣研修 報告書

人間文化創成科学研究科 文化科学系（文教育学部グローバル文化学環）森山 新

### 1. 概要

期間 3月24日～31日

場所 ワルシャワ大学（ポーランド）、ミュンヘン大学（ドイツ）

3月25日～27日 ワルシャワ大学を訪問（ERASMUS及び日本学科の授業見学）

3月28日～30日 ミュンヘン大学を訪問（日本センター視察）

### 2. ワルシャワ大学の ERASMUS 授業見学

ERASMUS (European Community Action Scheme for the Mobility of University Students) 計画は EU 域内の大学間で3か月以上1年以内の留学を推進する制度である。本学の学生がこうしたプロジェクトに参加することにより、多言語多文化共生のグローバル時代にふさわしい人材として成長することが期待できるが、EU 域外の本学学生が制度的、また内容的に参加可能であるかについて確認するため、既に日本や韓国からの留学生が授業に参加しているワルシャワ大学を見学した。本学からの留学生が参加する場合、英語による授業である可能性が高いことから、英語で授業が行われる以下の2つの授業を実際に見学した。

①科目名：Polish Geopolitics and East Dimension of EU the Polish Paw on a Big Chessboard

担当：Kazimierz Wóycicki 教授

開講：2009年夏学期（2-6月）

場所：Historical Institute17号室

使用言語：英語

授業概要：

This lecture has to be devoted today's geopolitical situation of Poland in the face of deep shift in the world politics. The relative weakening of the European Union and the United States, emerging of new economic powers of China and India, the menaces connected with Kremlins politics, increasing energy and ecological problems, issues of new technologies, world politics demographic and migration problems finally financial crises – these are factors of those world transformations which apply to the analysis of polish geopolitical situation. The question is whether Poland is condemned to be only an object of these transformations or can also have an influence on its position and its future.

②科目名：Russian Foreign Policy from Yeltsin to Medvedev(1991-2008)

担当：Witold Rodkiewicz 教授

開講：2009年夏学期（2-6月）

場所：旧附属図書館 211号室

授業概要：

・ Relations with the United States: from strategic partnership to selective confrontation and

back?

- ・ The emerging foreign policy consensus: Evgenii Primakow and the “multipolarity” paradigm

### 3. ワルシャワ大学の日本語授業見学

日本学科の以下の授業を見学した。

#### ① ビデオ日本語会話（4年生）

担当：平野恵美子講師

場所：日本学科教室（6階）

概要：映画「三丁目の夕日」を見ながら日本語と日本の文化を学んだ。

#### ② 実用日本語会話（3年生）

担当：平野恵美子講師

場所：日本学科教室（6階）

概要：授業は教材「日本語作文Ⅰ」を用いて、「私の夏休み／イースター」について会話練習を行った。

#### ③ 「実用日本語会話（1年生）」

担当：岡崎恒夫教授

場所：日本学科教室（6階）

概要：教材「みんなの日本語」を用いて、日本語初級の会話練習を行った。

### 4. ミュンヘン大学日本センター訪問

日本センターを訪問、エヴェリン・シュルツ教授、高橋淑郎講師などと話し合いの時間を持った。また日本語インテンシブコース、図書館を見学した。

## 5. 総括

### 5.1 ERASMUS の授業

現在、日本（学習院女子大）や韓国からの学生も参加しているとのことで、このことは本学と協定が結ばれた場合にも ERASMUS の授業に参加できることを示している。EU 諸国やポーランド人学生と日本人学生とではそれまでに学んできた基礎知識が異なるため、受講はやや難しい面もあるが、日本では受講することができない内容や視点・観点が含まれており、ERASMUS の授業に参加することで学びは大きいと思われる。受講者はポーランドの学生のほか、フランス、ロシア、ドイツなどの学生が多いようであった。

### 5.2 大学間教育・研究交流

ワルシャワ大学日本学科、ミュンヘン大学日本センターとも日本研究、日本語教育がさかんな大学であり、本学の学部・大学院レベルでの教育・研究交流を強く希望していた。本学の「言語と文化」、「グローバル化と日本語教育」などの授業で推し進めている交流型授業の内容を紹介し、両大学の日本語・日本文化の授業とジョイントで交流型授業を展開することで、多言語習得と多文化理解を推進していくことについて話し合った。また日本学コンソーシアムや国際ジョイントゼミを通しての日本学共同教育・研究の可能性についても話し合った。本学は大学間交流を原則としているため、それに合意しているワルシャワ大学とは交流が進むと考えられる（2009年12月に協定締結）が、ミュンヘ

ン大学側は部局間交流を望んでおり、ミュンヘン大学と交流を進めるためにはこの点をどう解決していくかが今後の課題である。



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University